



航空保安大学校（大阪府泉佐野市）訪問記

1. はじめに

2019年5月、ALPA JapanのATS委員会をはじめとする技術委員会メンバーの7名は、関西国際空港対岸のりんくうタウンにある航空保安大学校を訪問してきました。航空保安大学校は、日本の航空交通管制システムにおける人材育成を目的として、国土交通省が設置運営している「研修施設」という位置付けです。私たちパイロットにとってはなかなか縁遠い施設ですが、民間航空交通を円滑に実施するための要となる施設であることから、こちらを訪問することは双方にとって意味のあることだと考え、今般の訪問実施に至りました。

今回は長谷川校長はじめ、多くの教官の方々にご好意にいただき、非常に有益な訪問となりましたので、その一部を皆さまにご紹介します。



2. 航空保安大学校の概要

航空保安大学校は、航空交通管制業務に不可欠な、航空保安業務を担う航空保安職員を養成する機関で、基礎的な研修を担う本校が、今回訪問した大阪府泉佐野市のりんくうタウン地区に設置されており、また、専門的な研修を行う岩沼研修センターが、宮城県の仙台空港に隣接したエリアに設置されています。

航空保安業務とは言ってもその内容は実に様々で、私たちパイロットに馴染み深い管制業務の他、飛行計画の審査から救難操作等を行う運航情報業務、洋上の航空機に通信を行う管制通信業務、航空保安無線施設等の整備等を行う管制技術業務、航空灯火や電気施設等の整備等を行う航空灯火・電気技術業務、航空保安施設の性能確認・検査等を行う飛行検査業務、MTSATシステムを運用する航空衛星運用業務があります。

管制業務を担う航空管制官の基礎課程への入学には、現在、大卒程度の資格が必要です。本校での研修期間は8ヶ月で、訓練施設の関係により、年間80名を3期に分け4ヶ月毎に入学します。その他の航空保安職員向け基礎課程の入学資格は高卒程度で、2年間の養成課程となっています。

3. 航空管制官の訓練概要

管制官の訓練には CBT (Competency Based Training) が導入され、ICAO 訓練開発ガイドをベースに製作した標準訓練パッケージ (STP = Standard Training Package) を使用し、その品質、実施効果について ICAO の認証を受けています。

管制官の養成課程では、航空全般に関する基礎知識の他、大きなスクリーン3、4枚に管制塔からの景色を映し出した管制塔シミュレーターでの飛行場管制業務訓練や、実際と同じ機器を使用した航空路管制や進入管制業務訓練の実習を行います。訓練施設の見学では、実際にどのように管制を実施しているかを実演していた



いただきましたが、近年の機器更新により、飛行場(タワー)管制以外の航空路管制業務や進入管制業務は、従来はマイクスイッチでしたが、最新型ではフットスイッチとなっており、足でスイッチを操作しながら管制指示を口頭で伝え、同時にその交信内容をパソコン画面へ手入力しています。そうすることで、当該機に対してどのような指示を行ったのかが管制卓スクリーン上に即時に表示され、交信内容のモニターも同時に実施しているということです。

これに関連して、通信移管時に、管制官から指示されている速度や針路、高度を新たな管制機関にパイロ

ットが通報する必要性について、ATC との交信量削減の観点から疑問が生じたので確認したところ、管制官は画面上でそれらの情報を確認できる為、「通信移管時には高度情報のみで構わない」とのことでした（AIP では、通信移管時において、現在高度の通報が求められています）。

航空管制での取り扱い機数は直近 20 年で 1.6 倍強も増加していますが、航空保安職員の定員数は政府の施策のもと年々減少傾向にあり、同期間で 1 割ほど減少しています。

しかし、進入管制空域の統合や航空保安施設維持管理の遠隔操作化等による効率化、航空保安施設（VOR や NDB 等）の減少により、不都合は生じていないとのことです。

4. 航空保安大学校の様々な役割

当初、航空保安業務とは管制業務中心に捕らえていましたが、それ以外にも飛行計画の受理審査、ATM センターでの航空交通管理情報業務、NOTAM、ATIS の提供や外国航空機への立入り検査も行う運航情報業務、航空保安無線施設や管制機器などの維持、整備を行う管制技術業務、航空灯火の維持、整備を行う航空灯火・電気技術業務等があり、それら業務のもと、我々の安全運航が支えられていることがわかりました。

5. 最後に

航空保安大学校では、基本理念として「向上心」「協調心」「自立心」の 3 つを柱として、「常に成長する人材を育成する」という考え方を基本に、教育訓練が行われています。

その中で訓練生は、定められた期間内で審査に合格しなければ退学という、我々パイロットと同様の緊張感を持って訓練に望んでおり、空の安全を支える仲間として大変身近に感じられました。

「学校」という名前ではありますが、航空局管轄の機関であることから、事前連絡さえすれば見学可能とのことです。現役パイロットがこうした施設を見学することで、相互理解が進むことが期待されますので、是非皆さまも訪問されてみてはいかがでしょうか！？

以上